花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～

高浜市立吉浜小学校
令和６年５月３０日 №２１

よくがんばった校内運動会

校内運動会を行いました。天候に恵まれ、少し暑い中での実施となりましたが、子どもたちは一生懸命がんばっていました。自分の出番はもちろんのこと、他学年の演技などに、手拍子を打ったり、温かい声援や拍手をおくったりと、大変りっぱな姿を見せてくれました。6年生を始め上級生が下級生に「応援する姿」を見せてくれたからこそと思っています。保護者向けの運動会でも子どもたちのすてきな姿を見ていただくことができると思います。

＊このあと６年生は、「さらに完璧を目指したい」と言って、お昼の放課にいつものように自主練習を行っていました。最後の最後までできることをやっていく、その気持ちが嬉しいですね。

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～

高浜市立吉浜小学校
令和６年６月５日　No.２２

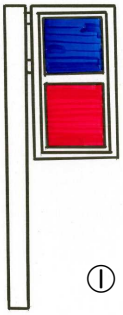
見ること～６月全校集会より～

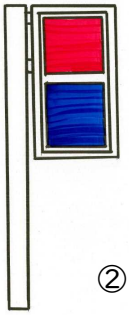
①

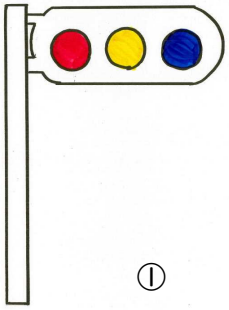
②

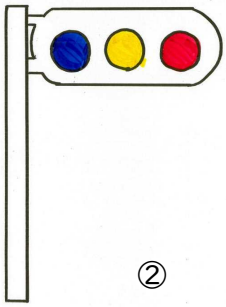
①

②


①


②


①


②

①

②

５月の全校集会では、「聴くこと」の大切さについて話しました。「聴く」の漢字のように、友達や先生のお話を、「目と耳と心を合わせて」聴くといった内容です。

今月は、「聴く」に続いて、「見ること」について話しました。まずは、子どもたちが日頃からよく目にしているであろうマーク（上の絵）について、正しいのはどちらか選んでもらいました。ズームによる中継のため子どもたちがどの程度正しく答えているかは分かりませんでしたが、後で子どもたちに聞いてみると、半々とか、ほとんどできなかったと言う子もいました。校章の問題をクラスのほとんどの子が間違えてたと教えてくれる子もいました。安全帽子や体操服などについており、一番近くで見ることが多いのに間違えてしまうのです。よく見ていてよく分かっているつもりでも意外と見ていないことがあるのですね。自然に目に入ってくるような見方では、詳細まで記憶に残らないのです。反対に、今、子どもたちが授業で行っている野菜の観察やモンシロチョウのさなぎの観察など、詳細までしっかりとらえる見方をすると記憶に残るものなのです。学習などここぞ、というところでこんな見方をしてみましょうと呼びかけて話を締めくくりました。＜クイズの答えは子どもたちに聞いてください＞

◇母の日の似顔絵展～入賞おめでとうございます～

ほけんの１１０番賞　１年　谷口さやかさん　　買取わかば賞　１年　加藤はやとさん
高浜Tぽーと賞　２年　柿沼美杏さん　　Curves賞　３年　山口奏太さん
駄菓子本舗賞　３年　大西莉央さん　　アクトス賞　４年　レー ゴック ハンさん
ファンタジックランド賞　４年　森由奈さん　　ダイソー賞　５年　仲井陽菜さん
とうふや豆蔵賞　６年　佐藤愛花さん

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～

高浜市立吉浜小学校
令和６年６月７日　No.２３

受け継がれる心

保護者のみなさんに見ていただきました運動会。どの学年も自分たちの力を出し切りました。演技や競技を終えた子どもたちからは「やりきった」という実感が見て取れました。暑い中で大変だったと思いますが、心地よい爽やかな気持ちになれたのではないかと思います。

そんな中で、紹介しなければならないのは6年生の取組です。6年生は5年生の終わり頃、6年生（現中学１年生）からフラッグの技を教わりました。杉浦逞斗さんが継承式でこう話していました。

「6年生のみなさんの演技にかける思いを、私たちも引き継いでいきたい。そんな思いをもちつつも、どうすればよいのか分からなかった私たちに、6年生のみなさんは優しく寄りそってくださいました。教えていただいたことを胸に、運動会へ向けてがんばります」と。さらに、「お互いを信頼し合い、一致団結して何事にも一生懸命に取り組む姿。さまざまなことを率先して考え、成し遂げる姿。私たちはそんな6年生の姿に憧れ、お手本としてきました。私たちも、みなさんのような賢く愛情に溢れた6年生になりたいです」と続けていました。

逞斗さんの話す視点で今回の6年生の取組を振り返ってみましょう。5年生のうちに6年生からフラッグの技を教わりました。そして4月。6年生になり、実行委員を中心に運動会のフラッグ演技の構成が練られていきました。朝や長放課に自主練習が始まりました。体育の時間における練習でも実行委員がマイクを握って、練習を進めていました。日本全国、運動会でフラッグ演技をする学校はたくさんあると思いますが、先輩から教わり学んだ技を、また、それらをアレンジして考えた技を組み合わせながら子ども自ら構成を考え、練習を進めてきた学校はさほど多くなりと思います。そして、何よりも子どもたちにこういった機会を与え、やきもきする瞬間もあったかもしれませんが、子どもたちを信じて温かい目で見守り、励まし支えてきた先生。こうして創り上げたフラッグ演技は吉浜小ならではの誇れるフラッグ演技だと思います。

当日、集合場所に向かう子どもたちが私の前を通り過ぎていきましたが、「最後、やってきます」「がんばってきます」など、声をかけて走って行ったことが印象的でした。最後の演技にかける思いが、自然とあふれ出ていたのでしょう。胸が熱くなりました。フラッグの技を教わりながら、技だけでなく心も学んでいた6年生。その姿を見ていた下級生。今後も引き継がれて行くことでしょう。

運動会に向けて、子どもたちの気持ちを高め、支えていただいた保護者のみなさん、本当にありがとうございました。

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～

高浜市立吉浜小学校
令和6年6月11日 №24

こどもの目の日

目に関する日にちと聞くと、１０月１０日の「目の愛護デー」が思い浮かびますが、昨日６月１０日は、「こどもの目の日」でした。

日本眼科医会は、子どもたちの視機能の発達を見守り、生涯、目の健康を維持する基礎を培うこと、また生活の中でデジタル機器に触れる機会の多い現在の子どもたちの近視発症や進行を予防すること、それらに関わる健全な視力を保つための知識と行動を広く国民に啓発することにつながる様々な活動を策定、実施しています。

生まれたばかりの赤ちゃんの視力はほんのわずかですが、成長とともに高まり、６歳くらいまでに視力１.０となるそうです。一方で視力１.０に届かない「弱視」の早期発見・治療や、低年齢化する近視発症の予防のため、「６歳で視力１.０」を大切な節目ととらえ、「はぐくもう！　６歳で視力１.０」という願いを込めて、６月１０日を、『こどもの目の日』として制定したとのことです。

子どもの目の健康で問題となっているのが近視で、低年齢化が進んでいます。文科省が令和５年１１月に公表した令和４年度の学校保健統計調査によると、裸眼視力が１.０未満の小学生の割合は過去最大の３７.９％でした。吉浜小の昨年度の視力検査では３８.７％でした。

近視発症や進行の予防のためには、テレビやゲームは長時間にならないように時間を決めて行う、ゲーム機やタブレットの画面から３０㎝以上は目を離すことなどはよく言われることです。近くの物を見続ける作業を1時間したら１０分ほど外を眺めて目を休ませることも大切です。また、最近よく耳にするのは、外遊びの勧めです。太陽の光が網膜を刺激して、ドーパミンを分泌すると近視進行の抑制になることが分かっているそうです。この機会に目の健康についてご家庭でも話題にしてみてください。

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～

高浜市立吉浜小学校
令和6年6月14日 №25

学校関係者評価委員会

高浜市内の小・中学校では、各学校ごとに学校関係者評価委員会を組織し、学校、家庭、地域が三者一体となって協働して学校づくりが展開されるように、委員の皆さんからご指導・ご助言をいただきながら学校運営の改善を図っています。学校の取組は、子どもたちの様子を見てもらうことが一番だと考えています。子どもたちの姿や様子から学校の取組が見えてこなければなりません。そんな意味で、学校関係者評価委員の皆さんに本校の子どもたちや教員の様子を見ていただけることを嬉しく思います。

この日は、まず学校側から、学校経営方針に基づき、令和６年度の取組について説明をさせていただきました。その後、全学級、全教室の授業の様子をみていただき、委員の皆さんからご意見やご感想をいただきました。以下に紹介させていただきます。

◇坂本直敏 様（令和4年度ＰＴＡ会長）

先週、仕事の関係で、兵庫県香美町というところに行ってきました。このまちは人口が15,000人くらいのまちで、選挙人名簿は13,000人くらいです。子どもが少ないまちです。まちを歩いてみると、やはりお子さんはあまりいなくて、観光地であるのでまちに活気はあるのですが、少し寂しいところもありました。今日、授業で教室を回って、子どもがこんなにいて、授業を受けていること、これがとても幸せなことなんだとしみじみと感じました。

◇山根宏昭 様（令和5年度ＰＴＡ会長）

クラスを回って見ていて、同じ学習内容にもかかわらず先生によって工夫されていて、同じ授業ではないところがよかったなと思いました。机の並びなども工夫されていました。自分の子どもの様子も見ましたが、子どもも友達も楽しそうに学習している姿がとてもよかったです。

◇黒野盛聖 様（元吉浜小学校長）

工事中にもかかわらず落ち着いた雰囲気の授業を見させていただきました。やっぱりクラスづくりにしろ何にしろ基本は授業だなと思いました。そして、その授業は担任の力によるところが大きいとも思いました。今、タブレットとか電子黒板とか、自分がいた頃とは違う機器があって、自分なんか古くさいかななんて思うのですが、やっぱり目がいってしまうのは昔ながらの黒板に書かれた板書ですね。その黒板と電子黒板の兼ね合わせ、どうやって有効に組み合わせて使っていくのか、一つ課題だと感じました。履き物が整頓されていて、これは自分がいた頃と変わってなくて、そして、きっとあいさつもしっかりしてくれるんだろうと思っています。大規模改修でがっかりしたのは北校舎と南校舎の3階の渡りに屋根が付かないということです。自分がいた頃と同じ、あそこは雨が降ると給食のワゴン車が運べない。なんとかならないものかとずっと思っていたけど、やっぱり今回もつかない、この点だけがちょっとがっかりです。

◇横井光義 様（吉浜まちづくり協議会長）

久しぶりに教室を見させていただきました。子どもたちが明るく元気な顔と声で先生とやりとりしている姿を見ることができてよかったです。学校ではこれが基本ではないかと思います。コロナがあって学級閉鎖など、先生方も心配されたと思いますが、それも落ち着いてきました。今は、教室の改築・改装で、これは子どもたちにはちょっとかわいそうかなと感じています。少し教室が暗

かったです。昼でも電灯なしでは授業が難しい。まだ1年半くらい続くことを考えると、例えば、6年生はこのまま卒業で、ひょっとすると残念な思い出になってしまうのかもしれませんが、そんな中で先生方が、子どもたちに楽しい思い出が残るように努力をされていることを今日は感じることができました。

◇内藤尚仁 様（吉浜まちづくり協議会子どもグループリーダー）

今、プレハブ校舎がある場所、ちょうど私が小学校５，6年生の時にこの校舎（南校舎）を建てるためにプレハブをつくって、あの場所で過ごしたことを思い出しました。私にとってはよい思い出です。最後に卒業の記念にこの新しい校舎に入れてもらい、屋上にも上がらせてもらいました。入学の年には北校舎ができた年だったと思うので、改修という面では私の学年もつながっていました。坂本さんのお話にもつながるのですが、この学校ができたのが明治5年だったでしょうか、昨年度150周年ということで、当時、全国いろいろなところに学校が創られました。この時にできた設楽の方にある田峯小学校が去年廃校になりまして、そのイベントがあって行ってきたのですが、最後にいた児童、卒業生が３～5人くらいでした。そんな中で吉浜小は私の子どもが入学するときに1年生が120人くらいいて、それからずっと120人くらいを継続している。大幅に増えることもなければ減ることもなく続いている吉浜地区のすごさを感じます。昨年度、児童会役員の子たちとまち協子どもグループとして、子どもたちが何を望んでいるのかということを意見交換させてもらいました。このときにいただいた意見で形になろうとしているのが「鬼瓦づくり」です。夏休みの子ども講座でやっていく予定です。この後、鬼師さんと打ち合わせをしますが、7月上旬くらいに案内をさせていただきます。それから取組の中にあることで目に見えたのが男女混合名簿で、教室に貼られているところがありました。こういうところでも子どもたちに寄り添っていくんだなと感じました。寄り添うということですと、学校だより（No.16）の中で、トイレットペーパーの芯の記事が印象的でした。何気なくやっていることをちゃんと受け止めて、発信していくことはいいことだと思います。それから耐震の関係で、北校舎のロッカーの上の棚はしっかりとめられていて落ちることはなく配慮されていると思いました。

◇木村暢宏 様（高浜中学校校務主任）

高浜中学校の前に、高取小学校、南中学校に勤めており、この時に一緒に働いていた先生方がたくさんいました。とても懐かしく感じました。中には私が担任した先生もおりまして、保護者のような気持ちで授業を見ておりました。私は校務主任という立場で仕事をしているのでそんな目で見ていたのですが、荷物をかけるフックの先にけがをしないようにビニールのカバーがかけてあり、そういったところがきちんとされているなと感じました。私も北校舎が少し暗いと感じました。いずれこのような大規模改修の行われる学校に勤務することもあるわけで、照明を変えるとか、対策を考えながら見ておりました。私はいつも管理当番日誌というものを見るんですけど、高浜中では帰るのが遅い先生が多く、最終下刻がこれまで一番遅かったのは0時10分でした。注目しているのは、「教職員の働き方改革」で気になっています。吉小は、授業力向上、今年度は道徳教育を中心に研究をしていき、道徳通信など新しいことにも取り組んでいます。新しいものを「ビルド」した中で、何を「スクラップ」していくのかというようなことが気になっていて、自分の学校では、「ビルド」「ビルド」「ビルド」ばかりになっちゃってて、「スクラップ」するものが何か、ただ、「スクラップ」して、子どもががっかりにならなくて、教員の業務改善にもつながるようなものがないかと考えています。なので、吉小の取組からヒントを得たいです。次回、成果や課題を聞かせていただくことを楽しみにしています。

◇磯貝かをり 様（吉浜幼稚園長）

園から就学したたくさんの子どもたちが先生の方を向いて楽しそうに授業を受けている様子を見て、ご苦労をおかけしていることもあるだろうと思いながら、こうして見学させていただけることは、みんなが「あなたたちのことを応援しているんだよ」というメッセージにもなるかと思い、参

加させていただきました。各クラスにクラス目標があって明文化して掲げてあるので子どもたちも意識して、そして、先生方も常に意識して生活されているのだと勉強になりました。幼稚園では環境づくりを職員で学んでおり、特に、子どもなんだけど子ども扱いしない、小さい子だからじゃなくて一人の人間として尊厳を大事にしています。環境も清潔で豊かで、がちゃがちゃしない環境づくりを目指しています。学校の教室は余分なものがなくてすっきりしていると感じました。子どもたちの写真が、運動会とか遠足の写真など、楽しそうな笑顔の写真が貼ってあって、園でも同じようにクラスの写真などを貼っているのですが、自分はこのクラスの一員なんだ、自分はここにいてもいいんだというクラスの一体感につながるということも大事にしています。保護者目線からしても子どもが笑顔で写っているところを見ること学校への信頼感にもつながるのかなと思い、園でも意識して取り組んでいます。保護者とのつながりを大切にしたいなと感じながら見させていただきました。

◇小林美里 様（吉浜北部保育園長）

最初に先生方が言われた「あたたかい学校」であるなと随所で感じました。磯貝先生が言われたようにクラスの掲示であったり、それぞれの学年の掲示板の写真や誕生日の入った顔、1年生の子たちのですが、そいうところで一人一人が受け入れてもらえていると実感できる部分であるし、それを受け取る保護者の方もすごく安心できると感じました。今日、道徳の授業をやってみえた4年生、道徳は見えない部分を子どもたちが考えていかなければならないので、園でも心に寄り添う、この子はどんな気持ちなんだろうねということを考えていくのですが、それを子どもたちが知っていくことは、先生方がそれ以上に考えられて、感じられて創り上げている授業なんだと思って見ていました。先ほど内藤さんがおっしゃられたトイレットペーパーの芯の記事ですが、こういうふうにみるんだなと感じられる保護者の方がいて、それがまた子どもたちに返っていくよい循環になっていくんだと思いました。園の職員にも吉小の保護者がいて、学校だよりを楽しみにしています。こんなことが書いてあるんですと、園で話題になることもあります。

◇新美貴子 様（話輪和の会代表）

タブレットの授業がすっかり定着して、親としては昔はノートに書いたというのがあって最初は戸惑ったのですが、娘のものを見ていると、タブレットならではの一教科に一ファイルあって、記入形式のスタイルだったり、いろいろあって変わってきているんだなと思いました。ただ、ノートと違ってタブレットの中に収まってしまうので､親としては今どうやってるんだろうと気になって、時々、見せてもらうんですが、見えにくくなっている部分もあるのかなと思います。そこで、なおさら先生方は一人一人の子をいろいろな角度から見て、声かけをして、情報共有をされていると思うと、保護者としては心強いです。4年生のクラスの目標に、あいさつ、ともだちとか自主的にやっている姿、学年が上がるほど教室の掲示も自主的に作って参加している姿が見えたのでさすがだなと思いました。私たち読み聞かせのメンバーは在校生の保護者よりもOBの方が多くなっていて、本当は先生方が棚を作ってきちんと整頓されているとか、こういったところを保護者の方がもっと見れば学校への理解も深まるし、互いに大変なところを協力しやすくなると思って読み聞かせへの参加を呼びかけています。読み聞かせの時は子どもたちの登校時間と重なっていて、その時にあいさつをしてくれたり、最近では自主的に4年生の子かな、正門に立ってみんなにあいさつをしていたりしています。先日、幼稚園の送り迎えでベビーカーから靴が落ちてしまったお母さんに「落ちましたよ」と声をかけている子がいたり、すごいなと思ったのは信号のない横断歩道で止まってくれた車に「ありがとう」と言って渡っていったりしているんです。きっと先生方も呼びかけてて、そういった姿をみんなが見て意識しなくても自ら動けるようになっているんだなと思って感動したことを覚えています。読み聞かせのメンバーは上は60代、下は30代と幅が広いのでいろいろな年代の大人の姿を子どもたちに見てもらっています。子どもはいろいろな大人を知って学んでいくと思うので、メンバー一同、味のある読み聞かせをお届けしいたいと思っています。